現代日本語の若者語の研究

黎　斯琳（レイ・シリン）

1.　はじめに

「平成１４年度　国語に関する世論調査」によると、約８割の回答者が日本語は乱れていると答えた。そして、読売新聞の調査によれば、乱れの原因として「意味のわからない流行語や新語が多い」、「若者の話し言葉で意味のわからないものが多い」、「敬語が適切に使われていない」などが挙げられている。つまり、日本語の乱れの主因の一つが若者語だと思われているのである。しかし、言語は時代とともに変わっていくものである。元は若者語だったものが、世間に認められて普通に使われるようになった例も少なくなく、若者語は言語が変化する過程の中で欠くことのできない要素である。本レポートでは、若者語の歴史と現代の若者語を調査し、若者語の変化について研究したいと思う。

2.　若者語の定義

米川（1997）[1] によると、若者語というのは、中学生から 30 歳頃までの若い世代、特に学生や OL が、仲間内で使う、いくつかの特徴を持つ特有の語や言い回しである。人は何かの集団に属している。そして集団の存在するところには、集団語が存在する。若者語は集団語の一つであり、親しい仲間内の言葉である。それゆえ、隠語的、暗号的で、ヨソ者にはわからないという特徴を持っている。本レポートでは、若者語を米川の定義に基づき、中学生から 30 歳頃までの人々が使う言葉として取り扱う。

3.　若者語の歴史

明治：女子学生―てよだわ言葉（あたいいやだわ・見てよ）、男子学生語（失敬・無礼千万）、外来語の借用（ミス・ワイフ）、る言葉（バイオる・エンビる）
男子学生―書生言葉（フレンド・たまえ）、寮の言葉（コンパ・万年床）

大正：女子学生―遊ばせ言葉（ごきげんよう・恐れ入ります）、人に関する隠語（エス・おめ）、男子学生語の借用（とても・猛烈）、荒いぞんざいな言葉
男子学生―ドイツ語づけ（ドッペル・エトバス）

1945 年以降：女子学生―巧みな造語（MMK・ロンパ）、人の評価語（エッチ・H 型）、外貌・服装を表す語（シミチラ・ヘヴン）
男子学生―ドイツ語（ゲルピン・キッセン）、麻雀・パチンコ用語（ジャン魔・ガチャ万）、犯罪隠語の借用（ヤバイ・スイバレ）、アプレ語（トンデモハップン・ネバー好き）

[1]米川明彦『若者ことば辞典』（東京堂出版 1997.3）

男女共通―感嘆詞（キョウイ・キゼツ）、省略語（エネロス・シクル）、
る言葉（デブる・ソバる）、外来語を用いた混交（モチコース・デポテ）、意味の転用（浪人・東大）

1960 年代：男子主導の言葉、学生運動用語（代々木・ひよる）、フーテン用語（ラリる・トロる）

1970 年代：女子の言葉が中心になる、言葉への不信から意味不明語と言葉遊び、
スケバン用語（ツッパル・まぶい）、女子高生・女子大生の性関係用語（移動大使・体制）、人をマイナス評価する語（ダサイ・メルっ子）、形容する語（ムズイ・きもい）、野菜語（ピーマン・トマト）、深夜放送から出た遊び言葉（ノーキョー・おやくろ）、0L 言葉（シンジケート・ブリーチ）

1980 年代：言葉遊びが盛んになる、言葉が娯楽の手段になる、
会話のノリを重視した言葉、若い女性の言葉が元気

1990 年代：言葉の暗号化・隠語化、女性が男性を馬鹿にした言葉（アッシー君・赤丸君）、アップトーク、～じゃあないですか、コギャル語（オール・こくる）、新たな比喩表現（～入ってる・～って感じ）

米川（1998）[2]によると、明治時代前半に西洋文明を受け入れ始めたことや女子が教育を受ける機会が増えたことなどがきっかけとなって、若者語が生まれた。男子学生には外国語を振り回す言葉と「僕、君、貴様」など「書生言葉」が使われていた。女子学生には「～てよ」、「～だわ」など下品と非難される「てよだわ言葉」が広がり、男子の学生語や外来語も使われていた。

大正時代から昭和初期までは、学校の履修科目の一つだったので、ドイツ語が男子学生の間でよく使われていた。女子学習院の学生は東京の華族の婦人、少女が日常使っていた言葉、例えば「ごきげんよう」、「恐れ入ります」などを「遊ばせ言葉」として使っていた。そして、人に関する隠語、男子の学生語もよく使われていた。

1945 年に戦争が終わり男女共学が始まると、感嘆詞、省略語、「るを語尾につけて動詞を作る」る言葉など男女共通の学生語も増えてきた。また、女子学生の言葉には巧みな造語、人、特に男性の評価語、外貌・服装を表す言葉が増え、男子学生には当時流行っていた麻雀・パチンコの用語も使われていた。犯罪隠語も不良により学生語に入った。

1960 年代は学生運動が激しい時だったので、男子主導の荒々しい言葉と学生運動用語が多かった。「フーテン」もこの時に日本に紹介されて、アメリカのヒッピーを真似する「フーテン族」の言葉も学生語の中に入ってきた。

1970 年代になると、女子大生が増加し、男子が学生運動の失敗で表から姿を消したこともあって、女子の言葉が中心になり、人をマイナス評価する言葉、形容詞、野菜語、0L 言葉などが流行るようになった。

[2]米川明彦『若者語を科学する』（明治書院 1998.3）

1980 年代の若者は、明るくておしゃべりでおしゃれと評価された。その時代は漫才ブームもあって、会話のノリがとても重視され、言葉遊びが盛んになった。

1990 年代は、ポケベルの大ヒットで若者語がさらに暗号化・隠語化された。女子中高生の遊びに関係するコギャル語、女性が男性を馬鹿にした言葉、「～入ってる」、「～系」などの新たな比喩表現もたくさん作られた。

70 年代から女子の言葉が若者語の中心になった。この傾向は今も続いていると見られている。

4. 現代若者語の発生

現代の若者語はメディアより大きな影響を受けていると考えられる。その一つはインターネットである。インターネットの普及により、日常の会話でだけではなく、インターネットでの会話でも特別な言葉が作られている。特に日本最大規模、利用者９００万以上の電子掲示板 2 ちゃんねるの影響がとても大きい。IT Media の調査によると 2 ちゃんねるの利用者は 50%以上が 30 代以下である。2000 年の西鉄バスジャック事件と 2004 年の電車男ブームで 2 ちゃんねると 2 ちゃんねる用語が非利用者にも注目されて、2 ちゃんねる用語が別の場所でも使われるようになった。ここに 2 ちゃんねる用語の一部を挙げる。

消防	小学生	厨房	中学生
工房	高校生	逝く	行く
乙	お疲れ様	おまい	お前
しる	～をしろ	人大杉	人多すぎ
コピペ	コピー・アンド・ペースト	儲	信者
外ゥー	タトゥー	マスゴミ	マスコミ
倒狂・頭狂	東京	逝印	雪印
海門	シーゲート	火狐	Mozilla Firefox
おわった	ｵﾜﾀ	逮捕	タイーホ
くわしく	kwsk	落ち着け	餅つけ

そして、若者に人気のある芸能人が使う特別な言葉も若者語になりやすい。例えば、漫画・アニメ好きで有名なアイドル中川翔子が自分のブログや出演番組で使っている、しょこたん語という独特の言葉は、最近若者の間でも流行っているそうである。以下はしょこたん語の例である。

～お・～だお	です・ます・だった・でした・だよの意味	りんぐ	現在進行を表す語
まんた	「ました」の意味。活用として「まんたった」に変化。	ギザ・ギガント	「超」の意味
ウレシス	嬉しい	カナシス	悲しい
カワユス	可愛い	モユルス	燃える、夢中になる
カッコヨス	かっこいい	らいらい	語尾に「お」をつけることにより挨拶として活用できる
キターッ!!、きたーッ!!	驚いたり嬉しかったりしたとき、感激した瞬間に発する言葉		

また、最近の人気バラエティ番組「はねるのトびら」の中に若者達が使う短縮語を紹介する「短縮鉄道の夜」というコーナーがある。このコーナーでは、新しい言葉だけではなく、比較的に古い言葉も紹介している。

『はねるのトびら』短縮鉄道の夜で紹介された短縮語
2007.04.09　放送分

ハネトビ	はねるのトびら	キムタク	木村拓哉
ファミレス	ファミリーレストラン	フユソナ	冬のソナタ
ワンピ	ワンピース	ジカチョウ	次長課長
ポテチ	ポテトチップス	フリマ	フリーマーケット
シモキタ	下北沢	ドラクエ	ドラゴンクエスト
ブラピ	ブラッド・ピット	キャミ	キャミソール
アケオメ	明けましておめでとう	タキツバ	タッキー＆翼
タナボタ	棚からぼたもち	スマスマ	SMAP X SMAP
メアド	メールアドレス	インパ	インパルス
ハンズ	東急ハンズ	ファンデ	ファンデーション
タカトシ	タカアンドトシ	ドリカム	DREAMS COME TRUE
ハナダン	花より男子	マンキツ	漫画喫茶
アジカン	ASIAN KUNG-FU GENERATION	エアコン	エアコンディショナー
エコ	エコロジー	ハセキョー	長谷川京子
パリコレ	パリコレクション	ナカメ	中目黒

ガバショ	頑張りましょう	ハリポタ	ハリー・ポッター
ツウハン	通信販売	アイルケ	愛の流刑地
ニコタマ	二子玉川	カメリハ	カメラ・リハーサル
ヤフオク	Yahoo!オークション	ワタオニ	渡る世間は鬼ばかり
イタメシ	イタリア料理	プリプリ	PRINCESS PRINCESS
スケボー	スケートボード	ヒルズ	六本木ヒルズ
カキコ	書き込み	バンプ	BUMP OF CHICKEN
パンプ	DA PUMP		

2007.04.12 放送分

プリクラ	プリント倶楽部	ポケモン	ポケットモンスター
アメフト	アメリカンフットボール	シャーペン	シャープペンシル
ミニスカ	ミニスカート	イタデン	イタズラ電話
チュウキン	駐車禁止	ファミコン	ファミリーコンピューター
アキバ	秋葉原	サンチャ	三軒茶屋
セリーグ	セントラル・リーグ	ジミヘン	ジミ・ヘンドリックス
モームス	モーニング娘。	シャメ	写メール
マツジュン	松本潤	アンミラ	アンナミラーズ
ガクサイ	学園祭	ドクモ	読者モデル
ヒサロ	日焼けサロン	メリクリ	メリークリスマス
テニプリ	テニスの王子様	スカパラ	東京スカパラダイスオーケストラ
ロンブー	ロンドンブーツ１号２号	ブラマヨ	ブラックマヨネーズ
オギヤ	おぎやはぎ	ウッチー	内田恭子
ナカミー	中野美奈子	チャクメロ	着信メロディー
ミスコン	ミスコンテスト	ヘリ	ヘリコプター
ポカリ	ポカリスエット	タワレコ	タワーレコード
エビタイ	海老で鯛を釣る	オスピー	おすぎとピーコ
ゴクツマ	極道の妻たち	メチャイケ	めちゃ^{2}イケてるッ！
ミスチル	Mr. Children	キシュヘン	機種変更
パンフ	パンフレット	ブラ	ブラジャー
トイプー	トイプードル	レッキリ	レッドホットチリペッパーズ

2007.05.01 放送分

アクセ	アクセサリー	コラボ	コラボレーション
ウラハラ	裏原宿	ゴマキ	後藤真希

ロイホ	ロイヤルホスト	ファミマ	ファミリーマート
サブカル	サブカルチャー	トリセツ	取扱説明書
ヒャッキン	百円均一	アポ	アポイントメント
ガムテ	ガムテープ	ゴクミ	後藤久美子
イトコン	糸こんにゃく	バイト	アルバイト
ビーサン	ビーチサンダル	キャパ	キャパシティー
ギブ	ギブアップ	エンレン	遠距離恋愛
イメチェン	イメージチェンジ	スタバ	スターバックスコーヒー
ケツメ	ケツメイシ	キンキ	Kinki Kids
ジュディマリ	JUDY AND MARY	マイラバ	MY LITTLE LOVER
レンジ	電子レンジ	ルイトモ	類は友を呼ぶ
アカプリ	赤坂プリンス（ホテル）	サプリ	サプリメント
セカチュー	世界の中心で愛をさけぶ	チカチュー	地下駐車場
オナチュー	同じ中学校		

2007.05.23 放送分

キャンギャル	キャンペーンガール	ミスド	ミスタードーナツ
リーマン	サラリーマン	パンスト	パンティーストッキング
ガムシロ	ガムシロップ	チャクレキ	着信履歴
ガチ	ガチンコ	ロベカル	ロベルト・カルロス
エレカシ	エレファントカシマシ	サザン	サザンオールスターズ
サンポ	サンポマスター	コメコメ	コメコメCLUB
ボニピン	BONNIE PINK	モンパチ	MONGOL800
ケミ	CHEMISTRY	ラルク	L'Arc~en~Ciel
オダジョー	オダギリジョー	オザケン	小沢健二
マツケン	松平健	シムケン	志村けん
ルロケン	るろうに剣心	スラダン	スラムダンク
キャプツバ	キャプテン翼	ベルバラ	ベルサイユのばら
ロクブル	ろくでなしBLUES	ハチクロ	ハチミツとクローバー
ハガレン	鋼の錬金術師	こちかめ	こちら葛飾区亀有公園前派出所
メルマガ	メールマガジン	カシオレ	カシスオレンジ
アニソン	アニメソング	オタ	オタク
モンナカ	門前仲町	ヘソピ	ヘソのピアス
エクステ	エクステンション	デキコン	できちゃった結婚
リフレ	リフレクソロジー	メタボ	メタボリック症候群

ゴスロリ	ゴシック＆ロリータ		

2007.05.28 放送分

コンビニ	ゴンビニエンスストア	パイカリ	バイレーツ・オブ・カリビアン
イベサー	イベントサークル	ゴゴティー	午後の紅茶
オモサン	表参道	ハマアユ	浜崎あゆみ
ポテサラ	ポテトサラダ	タキクリ	滝川クリステル
グラドル	グラビアアイドル	ヤブヘビ	藪をつついて蛇を出す
マイミク	マイミクシィ		

2007.06.22 放送分

カジテツ	家事手伝い	デジカメ	デジタルカメラ
ホムペ	ホームページ	ドンキ	ドン・キホーテ
テツオタ	鉄道オタク	ソニプラ	ソニープラザ
サントラ	サウンドトラック	セタドウ	世田谷通り
ツナマヨ	ツナ＆マヨネーズ	ジコマン	自己満足
ギョタン	魚群探知機	ニシオギ	西荻窪
レミオ	レミオロメン	ホコテン	歩行者天国
タベホ	食べ放題	スギリョウ	杉良太郎
ストツー	ストリートファイターⅡ	シッタカ	知ったかぶり
パケダイ	パケット代	トウダイ	東京大学
キョウダイ	京都大学	アオガク	青山学院大学
ジンダイ	神奈川大学	メット	ヘルメット
カラコン	カラーコンタクトレンズ		

2007.07.09 放送分

グラデ	グラデーション	ノースリ	ノースリーブ
オキッパ	置きっぱなし	チャゲアス	CHAGE&ASKA
ダンチ	段違い	ヒトリ	劇団ひとり
デコメ	デコレーションメール	カラメ	空メール
スキマ	スキマスイッチ	シャホチョウ	社会保険庁
ユウジュウ	優柔不断	マツキヨ	マツモトキヨシ
チュート	チュートリアル	ブル	ブルドーザー
メルトモ	メール友達	サトエリ	佐藤江梨子
ドンペリ	ドンペリニヨン	ボイパ	ボイスパーカッション

イケメン	イケてるメンズ		

5. 現代における若者語の特徴[3]

若者語は仲間内の言葉である。職場語・職業語・業界用語と同じで、関係者以外の者が聞いてもわからない。若者語はヨソ者が聞いてわからない、隠語めいた言葉でもある。

また、若者語は会話促進・娯楽・連帯などのために使われる言葉である。その中でも会話促進と娯楽のために使用されることが最も多い。会話促進に関しては、80 年代から会話の「ノリ」が重視されるようになり、またテンポ良く話すために省略語が多用されるようになった。娯楽に関して言えば、笑いを取るために珍しい語形、突拍子もない転義の語が使われるようになったことを挙げることができる。若者語は一言で言えば会話の「ノリ」のための言葉だと言える。

規範からの自由と遊びも若者語の特徴である。現代の若者は自由を主張し、言葉の規範からも自由に新たな語を造り出し、新たな意味と用法で使っている。自由だからこそ、言葉に縛られることなく、逆に言葉で遊んでみせる。若者語は平和な社会で遊んでいる人々の言葉である。

6. 流行と若者語

若者語はその時代の社会も反映している。参考に最近三年間の「新語・流行語大賞」の受賞語を挙げてみる。受賞語を見てみるとメディア、またマスコミの影響で選ばれた言葉が明らかに多い。メディアが新しい言葉を造り出し、若者がその言葉を取って使う。あるいは若者が造り出した言葉をメディアが広げる。メディアと若者語はお互いに影響し合ってきたと言える。

新語・流行語大賞[4]

2006	
イナバウアー	トリノオリンピックのフィギュアスケート金メダリスト、荒川静香の得意技。上体を反らした独特のポージングが話題に。本来は両足の爪先を外側に大きく開いて横に滑る技。体を反らせることをさすわけではない。
品格	藤原正彦著『国家の品格』の爆発的な売行きとともに広まった。氏は「論理よりも情緒を」と、日本人が備えていたはずの品格について説き、「儲かれば何でもよい」というマネーゲーム全盛の世の中に一石を投じた。
エロカッコイイ(エロカワイイ)	ボンデージにバニーガール、下着など、際どい衣装で一

[3]米川明彦『若者ことば辞典』(東京堂出版 1997.3)
[4]新語・流行語大賞　http://www.jiyu.co.jp/singo/

	気に人気者になった倖田來未。彼女のセクシーな衣装やスタイルは、「カッコイイ・カワイイ」ファッションとして認知され、肌を露出する女性が増加した。
格差社会	これまでの「一億総中流」が崩れ、所得や教育、職業などさまざまな分野において格差が広がり二極化が進んだといわれる。市場原理を重視し、改革・規制緩和を進めた小泉政治の負の側面との指摘もある。
シンジラレナ～イ	2006 年のパ・リーグを制した際に、日本ハムファイターズのヒルマン監督がお立ち台でこう絶叫。その後、日本一にも輝き、やはりインタビューの際に「シンジラレナ～イ」を披露。スタンドのファンは大いに沸いた。
たらこ・たらこ・たらこ	キューピーのＣＭに登場する「たらこキューピー」が、少し気持ち悪いキャラながらも人気を集めた。小学生ユニット・キグルミが歌うＣＭソングはＣＤ化され、オリコン初登場で２位に入るヒットに。
脳トレ	簡単な計算や音読などで脳の活性化をはかるトレーニング法の通称。「脳を鍛える」という言葉とともに普及し、脳トレの結果、自分の脳年齢がいくつになったかを知るというゲーム感覚が受けている。
ハンカチ王子	2006 年夏の甲子園を沸かせた早稲田実業の斎藤佑樹投手の通称。持っていた青いハンカチ(ハンドタオル)で汗を拭うその姿と爽やかさが世の女性を虜に。その後、ハンカチで汗を拭うパフォーマンスが流行した。
ミクシィ	日本で最大の会員を獲得(2006 年 9 月時点で 570 万人)した SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)。なお同社の笠原健治社長をはじめ、はてなの近藤淳也社長らは IT 界の新世代の意で「ナナロク世代」とよばれている。
メタボリックシンドローム(メタボ)	代謝症候群、内臓脂肪症候群とも。肥満に高血圧、高血糖、高脂血症などが重複して発症してる状態で、心筋梗塞や脳梗塞になりやすい。へそ周りが男性は 85㎝、女性は 90㎝以上ある場合は内臓肥満が疑われる。

2005	
小泉劇場	2005 年 9 月の衆院選は、小泉首相の意図するせざるに関わらず「造反」「刺客」「くのいち候補」の登場、郵政民営化問題に絞られた単純な争点などにより、さながら「小泉劇場」の態をなした。その結果「小泉一人勝ち」。

想定内（外）	ライブドア堀江貴文社長が、その負けず嫌いな性格からフジVSライブドア騒動の中で連発した。簡単な言葉に翻訳すれば「そんなことわかってますよ」。
クールビズ	2005年夏、政府が主導した軽装運動。ネクタイを外し、上着を脱ぐことで、冷房の温度設定を上げようというもの。ネクタイ業者に配慮したためか、秋口からはウォーム・ビズが提唱されている。
刺客	2005年9月の衆院選、小泉首相は、郵政造反組の自民党候補者に対し、造反を理由に公認を与えず、対立候補を立てた。綿貫民輔、亀井静香、堀内光雄、小林興起などに当てられた強力候補は「刺客」とよばれた。
ちょいモテオヤジ	岸田一郎編集長率いる月刊ファッション雑誌『LEON』（主婦と生活社）が繰り出すコピー群とその周辺文化。02年に特集された「モテるオヤジの作り方」を皮切りに30～50代男性に向け「チョイ不良（ワル）オヤジ」などのフレーズを生み続けている。
フォーー！	お笑いコンビ・レイザーラモン(住谷正樹と出淵誠)の住谷がハードゲイに扮し、レイザーラモンＨＧとしてテレビに登場したところ大ブレイク。独特の腰の動きを真似して親に頭をたたかれる子どもが続出。もちろん子どもの答えは「ＯＫわかりましたフォーー！」。「フォー」(正確には「フー」）はその持ちネタ。
富裕層	「金持ち」という名称に阿漕さが臭うため「高額所得者」と言い換えられ、さらに色を薄めた「富裕層」になった。
ブログ	ウェブログ(Web-log)の略称。従前よりは格段に容易に、また低コスト(ときに無料）で、個人がウェブ上に日記や写真等を公開・更新できるため大人気。他のブログと連携するトラックバックなど機能も十分。
ボビーマジック	2005年プロ野球日本一に輝いた千葉ロッテ・マリーンズのボビー・バレンタイン監督の采配、選手起用等への賛辞。ロッテナイン（とりわけ前任時に育成された選手や今回抜擢された若手）を指してボビーチルドレンとも。
萌え～	「ある事物に対して、深い思いを抱く」ことをさす「萌え」は、2005年にはおたく世界を越え、かなり一般化。萌え業界、萌え銘柄、もえたん、萌え株本、萌え属性などさまざまな使われ方をしている。

2004	
チョー気持ちいい	8月15日のアテネ五輪2日目。男子100メートル平泳ぎで金メダルを獲得した北島康介選手がプールから上がって述べた感想。優勝を確実視されたプレッシャーからの解放感を素直に吐き出したものだが、ゴール直後には1位かどうかわからず「応援席の盛り上がりを見てとりあえずガッツポーズ」と裏話を披露。

気合だー！	ボディビルポーズで前傾姿勢になり、顔をクシャクシャ(一生懸命な感じ)にして「気合だ〜！」と心の底から叫ぶ。娘の浜口京子選手をアテネ五輪へ送り出すとき、成田空港で10回連続で叫んだ。数年前より、すでに浜口氏のトレードマークであったもの。
サプライズ	英語 surprise は「びっくりさせる」の意味だが、小泉首相に関しては単なる「サービス」の意味で使われる。第1次内閣から田中眞紀子外相など組閣にあたって意外な女性を採用。このコトバは拡大解釈され2004(平成16)年7月の参院選前に突然訪朝してジェンキンスさんを返せと金正日総書記に迫った行動なども、小泉流サプライズ。同年9月の第2次組閣ではついに「ノーサプライズ」とがっかりされる始末。
自己責任	本来はリスクをとって行動した者が自ら「結果責任」をとることをいうが、最近では責任を転嫁する際にしばしば用いられている。特に自己責任という言葉が頻繁に用いられたのは、2004(平成16)年4月、戦闘が続くイラクで発生した武装グループによる日本人人質事件のときだった。3人の日本人人質に対して自己責任という言葉が向けられたのだ。政府の勧告を無視してイラクに向かったのだから、自業自得だという議論だった。彼らが果たそうとしたイラクの子供たちへの支援や真実の報道という尊い目的は無視され、政府に迷惑をかけたことだけがクローズアップされた。全体主義の下で、自ら考え、独自の行動をした人を切り捨てるための言葉が自己責任となってしまった。
新規参入	近鉄・オリックスの合併で5球団となったパ・リーグに、新たにライブドアと楽天が参入を表明。業種は両者ともIT関連の情報産業。おまけにライブドアが仙台・宮城球場を本拠地と定めたのに続き楽天も同球場を指名したためにNPB側は受け入れる1社をどちらかに決めなくてはならず、公開ヒアリングを開き選定を急いだ。結果は2004年11月2日のオーナー会議で楽天に決定となった。
セカチュー	2001(平成13)年4月に発売された片山恭一の小説『世界の中心で愛をさけぶ』が、村上春樹の『ノルウェイの森』の238万部を抜いて小説過去最多部数に。04年

	6月時点で306万部。柴咲コウ、大沢たかお主演で映画化され、興行収入歴代ベスト10入り。ＴＢＳが7月の連ドラに。初恋の人が白血病という純愛ストーリーブームのはしりとされる。なおタイトルはハーラン・エリスン著のＳＦ『世界の中心で愛を叫んだけもの』にオマージュを捧げたアニメ『エヴァンゲリオン』の最終回(同名)にオマージュを捧げたもの。
中二階	次期リーダーのポジションにいながら、いまひとつ影がうすい自民党の有力者、具体的には平沼赳夫前経済産業相、古賀誠元幹事長、高村正彦元外相、麻生太郎総務相のビミョーさを表現したことば。小泉首相が使って脚光をあびたが、考案者は自民党若手で世代交代の切り込み隊長、山本一太参院議員。実に言い得て妙。
って言うじゃない…／○○斬り！／…残念！！	って言うじゃない： ギター侍こと波田陽区（本名：波田晃）が、ギャグの転調時にはさむ言葉。着流し姿でギター一本を持ち現われる波田は、物憂い目つきで流行を取り上げ、ヨン様「って言うじゃない」と歌い、続けて「残念!!」と切り返す。「ヨン様と結婚したら、名字がぺだから、残念！」、と斬る。日テレ『エンタの神様』出身。 残念!!： 着流しにギター姿という風貌の芸人・波田陽区(ギター侍)が、漫談の切れ目あるいはオチに用いる常套句として人気が出た語。「残念!!」が向けられるのは辛めのトークで“斬られた”人物。
負け犬	「30代、非婚、子なし」を女の“負け犬”と定義したコラムニスト酒井順子のベストセラー『負け犬の遠吠え』からきている。映画『結婚しない女』(アメリカ・1977年)で輸入されたシングルズ・ウーマンという生き方と、「エンゲージリングは給料の3カ月分」と煽った玉姫殿が作り上げた3高結婚との、20数年に及ぶ対立への回答。松原惇子の『クロワッサン症候群』はメディアを恨み、谷村志穂の『結婚しないかもしれない症候群』はとまどい、林真理子の『花より結婚きびだんご』は決定的な本音とされたが、酒井は好んで「負け」ポジションをとることによって安穏と結婚生活を送り、子なしを批判する主婦をおとしめた。見事な戦略

	に、負けたらどうしよう、と本気で悩む女性たちも。
冬ソナ	2002 年 1 月から 3 月に韓国ＫＢＳテレビで放送された人気ドラマ「冬のソナタ」は、日本でも 03(平成 15)年 4 月からＮＨＫ‐BS2 で放映され、好評を博した。そのため、04 年 4 月からはＮＨＫ総合テレビでも放映され、最高 15%の視聴率を記録した。純愛物語や映像の美しさが中年女性層の強い支持を受け、同年 6 月には日本経済新聞社が「ヒット商品番付」西の大関に主演の「ヨン様」(ペ・ヨンジュン)を選定した。ドラマ挿入歌は日本語に翻訳され、ドラマの舞台が韓国観光の目的地になった。「ヨン様」が来日した際には、羽田空港に 7000 人ものファンが押し寄せる騒ぎになるなど一種の社会現象となった。ぺに加えて、イ・ビョンホン、チャン・ドンゴン、ウォンビンは「四天王」と称され、「韓流」の象徴的存在となった。 韓流： 中国語。「はんりゅう」と発音。1990 年代末、中国語圏で韓国製のドラマや映画、音楽が流行し、こうよばれた。日本では映画『シュリ』(99)に続く『冬のソナタ』(冬ソナ)、ＢｏＡなど韓国歌手のヒットなど合わせてブームに。『冬ソナ』は韓国で 70 年代に大流行した『キャンディキャンディ』がお手本だそうな。

7. まとめ

近代の日本は個人の解放、自由を求め、さまざまな束縛や規範から自由になりたがっていた。この思いは言葉の面にも求められ、新しい言葉が生まれた。若者語は日本の近代化の産物と言え、若者語の歴史は言葉の自由と遊びの歴史と言える。

明治時代から戦後頃までは、若者語は学生を中心とした、ほんの少しの人にしか使われない言葉だった。この時期の男子の学生語はエリートが持つ優越感のため、外国語をやたらと振り回していたことが特徴的である。また、彼らに負わされた将来の指導的立場に拘束され、言葉に遊びがほとんど見られず、原義のまま使用していたことに、時代の制約が見られる。

男子の学生語と違って、この時代の女子の学生語は下町の女の子が多数入学したため、下品と非難された言葉を盛んに使い、良妻賢母教育に反発するかのように規範の「女らしさ」から自由であろうとする言葉遣いをした。また、国家とは無縁の女学生達の間では、

言葉の遊びが盛んであった。

60 年代は学生運動の時代で、言葉に遊びや笑いがあまり見られなかった。学生運動の挫折により、言葉への不信と言葉の意味が失われていたことは 70 年代の若者語の特徴になった。この時代から、女子の言葉が中心となっていく。

80 年代からは消費文化が始まり、特に OL・女子大生はそのターゲットになった。この時代の若者語は遊びが盛んになって、会話の「ノリ」が重視されていた。また、若い女性の言葉が非常に元気が良く、若者語と言えば女性の言葉を意味するまでになった。

90 年代は 80 年代に進んだ会話の「ノリ」を楽しむことがさらに低年齢化して、女子高生が若者語の話題提供者になった。彼女達が造った「コギャル語」がマスコミによって広められた。

若者語はそれぞれの時代の背景とともに変化してきた。若者語を造ってきたのは若者達だけではなく、近代化によって個人の自由を追い求め、規範からの解放を追い求めてきた日本社会であろう。言葉の規範から脱しようとして、言葉の遊戯化が起き、臨時的な勝手な言葉が生まれ、言葉が次々に造られる一方で、次々に捨てられていった。社会の平和、娯楽化の中で、言葉も緊張したものではなく、娯楽化したものとなり、言葉が遊びの対象となる現象が生まれた。現代の若者語はその流れの頂点にあると言えよう。[5]

参考文献

米川明彦『若者語を科学する』(明治書院 1998.3)
米川明彦『若者ことば辞典』(東京堂出版 1997.3)
中野 独人『電車男』(新潮社 2006.12)
ウィキペディア　http://ja.wikipedia.org/
新語・流行語大賞　http://www.jiyu.co.jp/singo/
２ちゃんねる掲示板　http://www.2ch.net/
しょこたん☆ぶろぐ　http://yaplog.jp/strawberry2/

[5]米川明彦『若者語を科学する』(明治書院 1998.3)